

医療機関からの診察予約について

診療依頼申込書に必要事項をご記入の上、FAXで送信してください。

※一部診療科においては事前に紹介状のFAXを頂く場合もございますのでご了承ください。

医療機関からの検査予約について

北野病院では、地域の医療機関から各種検査の直接予約をお受けしております。

※患者さんからの直接予約はお受けしておりません。

検査結果は、ご依頼いただいた医療機関宛に郵送いたします。

ご依頼元医療機関にて、患者さんへ結果のご説明・ご報告をお願い致します。

各種お申し込みの詳細につきましては、
当院ホームページまたはQRコードを読み取りいただきご参照ください。
※診療依頼申込書はホームページよりダウンロードいただけますようお願いいたします。

当院ホームページ https://www.kitano-hp.or.jp/section/local/shinryo_y



※QRコードは
(株)デンソーウェーブの
登録商標です。

お問い合わせ先

北野病院 地域医療サービスセンター TEL 06-6131-2955(直通) / FAX 06-6312-8620(直通)

【受付時間】月曜日～金曜日 8:45～19:00

土曜日※ 8:45～14:45 ※なお、第2・第4土曜日・日曜日・祝日及び年末年始は予約受付を行っておりません。



公益財団法人 田附興国会 医学研究所
北野病院

〒530-8480
大阪市北区扇町2-4-20

<https://www.kitano-hp.or.jp/>



JRをご利用の方

環状線天満駅から扇町公園内を歩いて徒歩約7～8分

地下鉄をご利用の方

堺筋線扇町駅・谷町線中崎町駅から徒歩約5分

自動車をご利用の方

- 阪神高速守口線の扇町で降りて1つ目の信号を左折、次の信号を右折後直進300m。
- 新御堂筋線は茶屋町で降り、堂山町交差点を左へ、中崎交差点を右へ直進し300m。

※自動車でご来院の方へ
病院に駐車場がありますので、ご利用くださいますようお願いいたします。

北野病院の地域連携広報誌「きたの」

KITANO

VOL.002

2022.7

TOPICS

産科特集

「総合的に最善の治療法」をご提供

NICUと密に連携したハイリスク妊娠に対応
出産直後からチーム全体で安全な術前術後管理



「総合的に最善の治療法」をご提供

婦人科では、常に最新の診断・治療選択肢を取り入れる一方で、「総合的に最善の治療法」を患者さんにご提供することを心掛けています。

子宮筋腫・卵巣腫瘍などの婦人科良性疾患では、可能な限り腹腔鏡手術をご提案しています。腹腔鏡手術は創部が小さく、術後の創部痛が軽度であることから、患者さんにとってメリットの大きい治療です。しかしながら、高度癒着などの高難度症例では、安全面で開腹手術に軍配が上がることも少なくありません。当院では全症例で腹腔鏡技術認定医を含めたカンファレンスを行ったうえで最も推奨される手術方法をご提案しています。またこのような高難度症例では腹腔鏡技術認定医を含めた手術チームで治療にあたっています。また手術をご希望されて当院を受診された患者さんでも、精査の結果薬物治療が

望ましいとの判断に至る症例があります。この場合は当院で薬物治療を導入し、状態が落ち着いたと判断された時点で、以後の治療をご紹介頂いたクリニックにお願いすることも積極的に行っています。

一方婦人科悪性手術では、子宮頸がん・体がんに対して腹腔鏡下手術、ロボット支援下手術が保険適用されています。当院では子宮頸がんに対する腹腔鏡下手術、子宮体がんに対する腹腔鏡下手術およびロボット支援下手術の学会認定施設であり、これらの手術を保険診療で行うことができます。しかしながらがん治療においては、これら低侵襲手術は、がんの根治性を損なわないことが大前提になります。当院ではこの点を重視しており、全ての症例で「がんを治療する意味で、低侵襲手術が許容されるのか？」を婦人科腫瘍専門医と内視鏡技術認定医を含

めたカンファレンスで検討したうえで治療方針をご提案しています。特に子宮頸がんでは、低侵襲手術のリスクを提言した最近の海外の報告を受け(N Engl J Med. 2018; 379:1895-1904)、患者さんに十分に情報をご提供した上で、腫瘍サイズが小さく、リスクが低い症例に限定して腹腔鏡手術を適用しています。一方子宮体がんでは低侵襲手術の有益性は確立していますので、積極的に腹腔鏡下手術・ロボット支援下手術をご提案しています。その他当院が以前より取り組んでいる低侵襲手術として、子宮頸がんに対するセンチネルリンパ節生検・広汎子宮頸部摘出術(トラケクトミー)も適応を吟味した上でご提供しています。特にトラケクトミーに関しては、近隣クリニックと連携した積極的な不妊治療により多くの患者さんが妊娠分娩しておられます(産婦の進歩 2021:73:197-206)。

卵巣がんでは、近年患者さんの状態に合わせて治療方法を個別化するようになってきました。当院では外科・泌尿器科と連携しての徹底した腫瘍減量手術と、腫瘍内科と密に連携しながらの術後化学療法をご提供しています。また遺伝性乳がん卵巣がん患者さんに対するリスク軽減卵巣卵管切除術も行っています。

PROFILE

産婦人科

主任部長 樋口 壽宏(ひぐち としひろ)

日本産科婦人科学会認定専門医／日本産科婦人科学会認定指導医
日本婦人科腫瘍学会認定専門医／日本婦人科腫瘍学会認定指導医
母体保護法指定医



出産直後からチーム全体で安全な術前術後管理

NICUは小児科の一部門として、毎年約250人の新生児が入院しています。極低出生体重児や様々な合併症をもつ妊婦さまから出生した新生児の管理をおこなっています。先天性横隔膜ヘルニアや消化管閉鎖などの小児外科疾患については、妊娠中に診断・重症度評価を行い、出生直後からNICUにてチーム全体で安全な術前術後管理をこころがけています。また胸腔鏡・腹腔鏡手術などの低侵襲手術を積極的に導入していることも大きな特長です。先天性心疾患については胎児心臓外来にて診断・治療方針を検討しています。出産立ち会いから内科治療・手術前の心臓カテーテル検査まで当院にて実施可能です。羊水過多や心臓構造異常など、胎児疾患が疑われる場合は当院産科にご紹介いただくと幸いです。NICUチームは「全てのお誕生におめでとうを伝えること」を常に意識しています。赤ちゃんがNICUに入院になる可能性が高い場合は、スタッフによる出生前訪問を積極的に行うことで不安の解消につとめています。出産当日に

は赤ちゃんをNICUにお預かりする前にお母さんとの写真を撮影してプレゼントしています。また当院は全国22施設の「新生児蘇生法トレーニングサイト」に認定されており、新生児蘇生法普及活動につとめています。院内出生に対しては、24時間いつでも高度で完全な蘇生ができるように備えています。

NICUは本年増築工事をおこないました。以前よりも広く、個室化されたスペースにおいて、ご家族には赤ちゃんとの時間を過ごしていただけます。



PROFILE

小児科 部長

水本 洋 (みずもと ひろし)

日本小児科学会認定専門医／日本小児科学会認定指導医／NCPRインストラクター／日本周産期・新生児医学会認定周産期専門医(新生児)／日本周産期・新生児医学会認定周産期指導医(新生児)／新生児蘇生法普及事業小委員会委員／日本周産期新生児医学会B(小児科)領域 評議員



NICUと密に連携したハイリスク妊娠に対応

当院は大阪府の地域周産期母子医療センターに指定されており、併設されたNICUと密に連携してハイリスク妊娠を含めた妊娠分娩管理を行っています。早産に関しては妊娠26週以後を原則的な受け入れ対象としていますが、より早期の症例もご相談の上対応できるよう心がけています。当院で分娩される妊婦さんでは、ハイリスク妊娠は当院で健診を行う一方で、合併症のない妊婦さんに関してはご自宅近くのクリニックで健診をお願いし、妊娠後期以後当院で管理をお引き受けするセミオープンシステムも積極的に導入しています。当院は内科における各分野のエキスパートが診療に携わっており、内科合併症を有する妊婦さんに関しても、連携して安全な妊娠分娩管理が可能です。胎児に関しても、妊娠中の胎児心疾患の診断を小児科医師と

連携して行い、分娩時の管理方針を決定しています。また当院産科病棟では、実際の分娩介助に関与する助産師が、外来看護部門と連携して妊婦健診時から個々の妊婦さんに対する看護ケアを入院前より実施しています。またリスクの低い妊婦さんに関しては助産師外来での妊婦健診も可能です。分娩に際しては、産科医師に加えてNICU医師が24時間体制で待機しており、分娩時の異常にも迅速な対応が可能です。経膈分娩が困難と判明した場合でも、原則麻酔科医師による麻酔管理のもと安全な帝王切開が可能です。





特任副院長 兼 心臓血管外科部長 腰地 孝昭 (こしじ たかあき)

私は福井大学第2外科教授として13年間勤務した後、4月より特任副院長として心臓血管外科に着任しました。関西での勤務は1999年の京都大学附属病院以来となりますが、当院には多くのなじみ深い同僚や後輩も勤務されており、少し安堵しております。これまで成人心臓血管外科手術全般(冠状動脈バイパス術、弁膜症手術、大動脈瘤手術など)を数多く手がけており、その経験を北野病院心臓センターにおける循環器疾患の集学的治療成績向上に少しでも寄与できるよう努めて参ります。



救急科主任部長 平川 昭彦 (ひらかわ あきひこ)

このたび、本年1月付で公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院救急科の主任部長を拝命しました。大役を仰せつかり、たいへん身の引き締まる思いであります。私は平成5年関西医科大学を卒業と同時に同大学病院高度救命救急センターに入局し、京都医療センター外科、藤田医科大学病院高度救命救急センター(災害・外傷外科教授)と勤務して参りました。救急医として、多発外傷・熱傷をはじめとした重度外傷分野や中毒・災害医療を専門としております。いろいろと構想はありますが、私自身右も左もわからず、あれやこれやと四苦八苦している現状です。ただし、強い熱意と誠意をもって微力ながら地域の救急医療に取り組む所存であります。今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



心臓血管外科主任部長 兼 臨床工学部部長 金光 ひでお (かねみつ ひでお)

2022年4月から北野病院心臓血管外科に着任しました金光ひでおと申します。

昨年までは京都大学医学部附属病院に勤務しておりました。生まれ育った大阪で働くことができ、喜ばしく感じるとともに、北野病院で働くことの重責も強く感じております。

大阪駅周辺に複数の大きな病院がある中、当科に患者さんをご紹介いただいた医療機関の先生方にご期待に沿えるよう全力を尽くしたいと考えております。手術症例はもちろんのこと、外科的治療適応が悩ましい症例についてもお気軽にご相談いただければ幸いです。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



消化器外科部長 田浦 康二郎 (たうら こうじろう)

2022年4月1日付けで消化器センター消化器外科部長を拝命致しました田浦康二郎です。

近年、消化器外科周辺では著しい環境変化が起こっています。疾患頻度の変化が目立ち、胃癌、肝細胞癌は減少し、大腸癌、膵臓癌が増加しています。手術に目を転じると開腹手術から腹腔鏡手術、更にはロボット手術への急速な転換が進んでいます。更に肝細胞癌や膵臓癌に対する重粒子線治療の保険適用はこれらの疾患に対する手術の役割を変える可能性があります。

このような環境の中、我々外科医にはますます患者さんに優しく、長期成績の良好な手術が求められます。患者さんに満足していただける最善の治療を提供できるよう努力して参る所存でございますので、ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



放射線診断科部長 広川 侑奨 (ひろかわ ゆうすけ)

このたび、2022年4月より放射線診断科部長を拝命いたしました広川 侑奨と申します。

前任地である独立行政法人国立病院機構京都医療センターでは、診療科長としてX線やMMGやCTやMRIなどの画像診断・核医学・IVRといった放射線診断科業務に携わってまいりました。

北野病院では今までの診療経験を活かして、放射線科スタッフと連携し、それぞれの患者様が安全かつ最適な検査や治療が実施できるように尽力していきたいと考えています。また、診療の質の向上や地域医療の発展に少しでも貢献できるよう、一層精進してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

化学療法センター

2020年の新館建設に伴うリノベーションプロジェクトの一つとして、本年1月31日化学療法センターが本館6階に移転・拡充されました。治療ベッド数が従来の26床から34床に増床になり、これまでの混雑していた状況が改善されるとともに、スペースにもゆとりができ、患者さんに治療を受けて頂く環境がより良くなったのではないかと思います。化学療法センターでは各診療科或いは他職種間の連携・コミュニケーションを大切にして、患者さんが安心して最適な化学療法を受けて頂けるよう引き続き尽力してまいりますので今後ともよろしくお願い申し上げます。



血液浄化センター

血液浄化センター(透析室)は本館4階にありましたが本館改修移転計画工事に伴い、2022年1月本館6階へ移動いたしました。20床に減床となりましたが外来透析を縮小し、検査・処置・手術など入院が必要な透析患者さんの受け入れは従来通り可能です。院内のすべての血液浄化治療を担当しており、オンラインHDFを含めたすべての血液浄化モダリティに対応可能です。COVID-19透析患者さんではコロナ病棟への出張透析を行っており、腹膜透析やCKD啓発イベントも引き続き継続しています。今後ともよろしくお願い申し上げます。



アイセンター

本年3月22日より眼科は本館5階へ場所を移し、新たにアイセンターとして稼働しはじめました。具体的には処置室を2室にしたことで、処置や小児診察が迅速に行えることとなり、来年には年間1000件以上の硝子体注射を手術室から外来施行に移行する予定です。検査室やレーザー室は、今後の新しい機器の導入を見据えて1.4倍に面積を拡大しました。加えて広々とした診察室や廊下、待合室などでは、social distanceを確保しやすくなり、また高齢化社会に伴う車いす患者さんの増加にも対応可能で患者さんに好評です。その他、感染者待機室、面談室、セミナー室なども新たに備えました。拡充した環境で最善の医療の提供に努めて参りますので今後ともよろしくお願い申し上げます。



編集後記

EDITOR'S NOTE

今号の制作にあたっては、産婦人科や産科病棟、小児科、NICU病棟のご協力をいただいて、写真撮影を1月に行う予定で昨年より準備を進めていました。ところが、年明けからCOVID-19の第6波が当院でも猛威をふるって撮影どころではなくなり、やむなく延期となってしまいました。関係者と調整したスケジュールが直前で流れてしまうのは広報としてはとても悲しいことですが、感染

対策のためには仕方ありません。第6波が収束して院内の状況が改善された5月、延期していた撮影が無事終了し、この度発行にこぎつけることができました。制作が順調に進まなかった分、今は安堵の気持ちでいっぱいです。

地域医療サービスセンター 広報室 主任 今口 大和